

第3回「西山卯三記念叢書」出版助成（2025年度募集）選考結果概要

●採択された著者および原稿

- ・著者： 成 浩源（文化財保存計画協会）
- ・原稿タイトル（仮）： 「北京旧城の歴史的街区の形成とその変容：持続的環境整備手法の探究」

（次点）

- ・著者： 田中 正人（追手門学院大学教授）
- ・原稿タイトル（仮）： 「被災地の『孤独死』はなぜ止まらないのか？：非常時における居住政策の再検討」

●応募数：6件

●総評

第3回「西山卯三記念叢書」出版助成には、全6点の応募があった。いずれも人と住まいに関わりの深い内容の出版提案であり、本助成事業の主旨にかなうものだった。5名の選考委員で、二段階の選考を実施した。一次選考では、選考委員全員が申請書および素材となる原稿を読み、1点につき3名が、テーマの独創性とその社会的意義または学術的価値を評価しコメントを記した。これら一次選考結果を集約共有した上で、4月19日に選考委員会を開催し、選考委員全員が集まって話し合い、成浩源さんの「北京旧城の歴史的街区の形成とその変容：持続的環境整備手法の探究」が採択された。

本事業は、2016年に始まった「人と住まい文庫」シリーズを前身とし、より本格的な書籍の出版を助成するもので、今年度で第3回を迎えた。応募のあった6点とも単著で、学位論文の書籍化を目指す若手と経験豊富な著者に二極化していたのが今年度の特徴だった。国内外の住宅・都市・まちづくりに建築学的にアプローチしたものが大半だったが、社会学的なエスノグラフィとしてまとめたものなど切り口の異なるものもあった。

二次選考の話し合いにあたって、特に視点が異なるものについては内容に即した異なる物差しでその独自性や意義を理解するように意識した。社会的意義が際立っていたり、貴重なヴィジュアル資料を掘り起こしていたり、一般読者に届きやすい身近なテーマであったり、現代のまちづくり活動を問い直すメッセージがあったり、光っている魅力がまちまちであるなか、内容を総合的に評価して質の高さで判断する原則を重んじた。

最終的に選ばれた成さんの原稿は、北京の四合院で構成されている歴史的市街地を対象とした博士論文を元としている。成さんは、ひとつの四合院に複数家族が住むようになり増築を重ね雑院化していったまちの数奇な遍歴を、様々なスケールで豊富な図版を作成し描き出している。そこに、環境改善の必要性を認めながらも、人間的な魅力を見出している。現在の住人たちが住み続けられることを尊重して継承することでこそ四合院を生かし続けられるのではないかと。緻密な研究成果に立脚して、現居住者を立ち退かせ文化財として保存し商業的に活用する当局の整備方針に一石を投じる書となると確信している。

（岡部 明子／選考委員長）